

令和2年度 第1回丹波市総合教育会議 会議録

令和2年5月26日（火）午前9時00分～午前10時00分
丹波市役所山南支所3階 教育委員会室

出席者

市長	谷口 進一
副市長	鬼頭 哲也
教育長	岸田 隆博
教育長職務代理者	深田 俊郎
教育委員	出町 慎
教育委員	横山 真弓
教育委員	安田 真理
企画総務部長	近藤 紀子
政策担当部長	近藤 巧
教育部長	藤原 泰志
教育部次長兼学校教育課長	足立 和宏
教育総務課長	足立 勲
学事課長	井尻 宏幸
文化財課長	山内 邦彦
総務課長	田口 健吾
教育総務課庶務係長	芦田 将司
総務課	足立 詩織

傍聴者 0名

1 開会

○近藤部長

それではお時間になりましたので、第1回総合教育会議を始めさせていただきたいと思
います。まずは市長から挨拶をお願いします。

2 市長あいさつ

○谷口市長

今回のコロナウイルス対策については、経済面そして教育面で今、大変大きな課題になっ
ていると思います。そんな中で、家庭環境が大きく異なることで子ども達に大きな格差が出
ているのではないかと、これは私だけでなく多くの方が仰っております。

学校というのは、全員が一同に会して規律を学ぶところ、私はそういう風に理解しており
ます。それが2ヶ月3ヶ月ほど休業になり、伸び盛りの子ども達にとってどのような影響が
あるのか、これは現場で見ておられる岸田教育長はじめ、先生方が一番良くご存知かと思
います。一方で新たな生活様式と言われるように、教育分野でもオンライン教育や、GIGA ス
クール構想という、そんな新しい取り組みが思いがけず一気に進んでいく、そんな予感があ
ります。

私は3年半前市長に就かしていただいた時に、教育長は大変こういった事に造詣の深い
岸田さんにといいことでお願いしました。これから教育現場で ICT 技術が存分に使われる
日が急速に迫ってきていると感じます。私の息子は2人ともそうですが、いわゆる「ゆとり
教育を受けた世代の人は」、というような言葉をよく言われるわけです。一方で今回、コロ
ナ時代の子どもというような良い意味でも悪い意味でも大きな時代の変革期に差し掛かっ
ていると思います。そんな中でよく言われる、誰一人として落ちこぼれる子がない、そんな
教育ができれば理想ではありますし、教育委員さんの英知を結集してそういったことを考
えていただけたらと思っております。

現在市役所の中では、令和2年度の予算の中で、いわゆる不要不急の仕事はやめて、もっ
と他に重点的にしなければならない仕事に特化しようと、こういう風にしております。その
中で、5月臨時議会で議決いただいたのは、2億6千万円、GIGA スクール構想を前倒しし
て実施していくという大変大きな予算であります。市を挙げて、教育委員会がお考えのこの
構想にはバックアップさせてもらいたいと思っております。また、山南中学校は令和5年4
月に開校ということですが、こういった予算につきましても一切削減はできないと思っ
ております。一方で市島の小学校統合の問題もあるわけですが、こういったものはどうするの
か、というようなことも重要な問題です。一旦ここで休めにするのか、そういった問題につ
いても考えていかなければと思っております。

それと本日手元にお配りした資料ですが、9月入学という制度、これはものすごく大きな
変革です。先週の金曜日に全国市長会の方から問い合わせが来まして、賛成か反対かどちら
でもないかの三択でアンケートを取られていました。お手元には尾木さんと前川さんの資

料を配布しておりますが、この二人の意見は少し違い、尾木さんはどちらかというと前向き、前川さんはいいやや時期尚早、そんなご意見です。尾木さんの一番右下の最後に書いてあるように、日本は平時では絶対と言っていいくらい何も改革できない、何かしようとするのであれば今このタイミングでないとできません、という貴重なご意見だと思っています。しかし、これはなかなか簡単に結論が出る問題ではなく、本日教育委員会の皆さんの意見を承りたかったのですが、アンケートの結果を早く返せということで金曜日に返した結果が、配布した本日の日経新聞の記事で載っています。これに書いてある通り、市区長の8割は消極的、前向きな人は少なく現時点では色んな困難な課題が多すぎてもう少しじっくり考えましようという方向になっています。

今はまず学習の遅れを取り戻すことに一生懸命取り組んでいただいていると思っておりますが、慎重に10年20年先のことも考えながら、そういった心構えで臨みたいと思っております。またご相談をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。私からは以上です。

3 協議事項

○近藤部長

それでは協議事項に入らせていただきます。協議事項の1点目といたしまして「新型コロナウイルス感染症の影響による学びの保障について」、2点目といたしまして「夏季休業短縮に伴う熱中症対策について」を議題とさせていただきます。教育委員会から説明をお願いします。

○藤原部長

「(1) 新型コロナウイルス感染症の影響による学びの保障について」ということで、資料等を使いながら説明させていただきます。3月から新型コロナウイルスの影響により臨時休業、また4月には緊急事態宣言ということでその区域に兵庫県が指定をされました。一時期を除きましてこの5月31日まで臨時休業を行っているところです。先ほどの臨時教育委員会でも6月1日から段階的に学校を再開することを決定いただいたところです。このような中で、今年度にはGIGAスクール構想が前倒しになり、児童生徒全員にタブレットが整備される予定です。この導入は実際には令和3年2月頃になります。今年度中にはなんとかなると思っておりますが、年内にという状況の中で新型コロナウイルスの第2波第3波がくる可能性もございます。

今回臨時休業が長期化している中で、市内の各小中学校の方ではZoom等によるオンラインでの朝の会・終わりの会が行われています。今後ますます色々な形でその必要性が高まってくると思われれます。そのような中で資料の方にありますように、生活アンケートを児童生徒用と保護者用で4月に実施しております。その中で、Q9や保護者用のQ7、8のあたりを見ていただきますと、学習や勉強のことで困ったり心配されたりということが非常に多いことが分かっております。また、3枚目の資料にもありますように、各家庭にWi-Fiの状

況を調査しましたが、中学校で 105 家庭 7%、小学校で 171 家庭 9%、全体で 276 家庭 8% の家庭が Wi-Fi の環境がないということが判明しました。このような中で、現在事務局の方では Wi-Fi 環境のない中学 3 年生、特に高校受験を控え今回の臨時休業の影響が非常に大きいのではないかといい 33 家庭 6% に対して、中古ではありますが公用のパソコンを修理して対応ができないか、また、モバイルルーターを貸与して Wi-Fi 環境を整える、それから学習コンテンツを中学 3 年生全員に導入できないか、予算化をするということを現在財政当局と協議をしているところです。このようなことについて議論をお願いしたいと思っております。

それでは、「(2) 夏季休業短縮に伴う熱中症対策について」も合わせてご説明をいたします。新型コロナウイルス感染症の防止による臨時休業が長期化しました関係で、夏休みが 8 月 8 日～8 月 23 日までの約 2 週間となりました。ということは、本来夏季休業期間であった日に登校させるので、特に 7 月の終わりから 8 月の初めという一番暑い時期に熱中症の危険性があるということも考えられます。特に下校時にはなかなか厳しいだろうと思えます。また、各学校からも在校中を含めて要望が挙がってきており、中でも要望事項で多いのが資料 4 枚目にありますように冷感タオル等 5 点です。市教育委員会としてはこれらにつきまして必要な対策を現在検討しているところでございます。以上、現在の対応の状況をお知らせしました。ご意見を頂けたらと思えます、よろしく申し上げます。

○近藤部長

ありがとうございました。説明いただきました 2 点について、各委員様並びに市長部局の方からも質問を含めご意見を頂けたらと思えますので、よろしく申し上げます。

○谷口市長

私は今手元で丹波市教育振興基本計画を見ていますが、家庭の状況の変化という中に、身近に相談できる相手がないという家庭教育を行う上での課題が指摘されています。確かに少数派であるとは思いますが、どうしても経済的な問題等もあり、ついていけないご家庭もある。給食がストップすることによってまともに昼御飯を食べていない子どもさんがいる、ということで今回の補正予算で 46 人ほどにそういったものが配られました。誠に申し訳なかったのは、もう少し早く議決されていれば 5 月 18 日からではなく、1 週間でも早く対応ができたと思えます。私の責任なのですけどね。そういう数パーセントの子どもさんに何とか手厚い対策が必要かなと思えます。

○近藤部長

ありがとうございました。深田委員さんいかがでしょうか。

○深田委員

先ほどの臨時教育委員会の中でも話があったのですが、8 月 8 日～8 月 23 日までの夏休み短縮という方向性を持っております。部長からも話がありましたように、熱中症対策としても色々な市からの支援を受けながら、子ども達も安全登校を行うということで話はしております。学校現場は今オンライン授業が増えてきて、それに向けての先生方の活躍、また、

今までの授業をしてきた先生方はどうしたらいいのかと戸惑っている姿もあるかと思いません。こういう状況の中でもこの2つをどう融合して子ども達の新しい学びに結び付けていくかという議論が必要ではないかと思えます。子ども達も段階的にスタートするのですが、先生方も考えながら段階的に今後長い子ども達の将来に向けて検討すべきだと思います。しかし、迅速に取り掛からなければいけない状況ですので、我々も、また市の方にも支援をお願いできればと思っております。

それと、具体的に子ども達の夏休みに向けてということで、7月8月と相当な暑さになっていくだろうと、熱中症対策も必要だろうと思えます。例えば、授業を1時間前倒しし涼しい内に授業をして、そしてクーラーをつけながらなんとかして熱中症対策をしていくことができないかと提案させていただきました。子ども達は朝早くからラジオ体操で起きて頑張っている生活をするので、そういう風な取り組みがあってもいいかなと思えます。親御さんも大変でしょうが、子どもが早く家を出れば自分も仕事に向かえるという利点も出てくるので、給食や先生方の勤務時間等、クリアすべき課題は沢山あるのですが、そういう具体的なことを1つ1つ考えながら熱中症あるいはコロナウイルスの中でも安全・安心に進めていく、そんな対応が必要だと思っ先ほどの臨時教育委員会でも申し上げたところです。また、自転車通学のヘルメットは、高校の場合は相当な距離になり、暑さで頭が蒸れるということで安全指導のリスクを考えながらも無くしました。中学生に関してはまだまだ安全に関して未熟な点があり、ヘルメットを無くすというのは難しいのですが、ヘルメットの中は相当な熱がこもりますので、何か対策ができないかと先ほども申し上げたところです。取り留めのないことを申し上げましたが、子ども達が暑さの中どうやったら学びを続けられるか、そこらへんがこれからの焦点になるかと思えます。以上です。

○近藤部長

ありがとうございました。横山委員さんいかがでしょうか。

○横山委員

学びの保障についてなのですが、非常に大きな転換期で様々なトライを学校でしていただいております。ただやはり子ども達の様子を見てみると、急にやりなさいと言われてもなかなか集中して画面を見続けるとか、そういった経験がないのですぐにサイトを活用できるかという、非常に難しい面があると思えます。親がサポートしないとなかなか難しいとなると、やはり共働きの家庭は利用できない、家庭に誰かがいれば利用できるというような格差が出てくる可能性もあるかと心配しております。非常に新しいことをやるので、色々な状況があるのは当然のことで、だからといって学びを止めるということはないという考え方は非常に良いと思うのですが、現場の先生方がそういった現実の大変なところを担われるので、これまでやってきていない対応を先生方は取らないといけない、というようなところも、恐らく学校が再開すると相当な課題が出てくるのではないかと考えています。生徒への支援、家庭への支援、それから先生方への支援、これらが三位一体でなされないと、なかなか厳しい状況にこの1年間はあるのかなと考えています。

もうひとつは、ネット環境を使うにあたっての安全とモラルが未熟な子ども達では問題が生じますので、やはり大人が付いていないといけない、というところをどう解決していくのか、あとはモラルについて大人が問題を起こしていると子ども達が真似するということが当然考えられますので、そういった新たなところでの課題をどうクリアしていくのか、このあたりがクリアされないとネット環境での学びというのは難しくなってくると思います。良い面と悪い面の両方があるので、悪い面についてどうサポートしていくか、そこが非常に難しさを感じているところです。ただ逆に言えば、色々なコンテンツや教育で対面が難しいお子さんに対して色々なアプローチができるというようなメリットもあると思いますし、都市部に住んでいなくても遠隔でほとんどできてしまうというようなメリットもあります。親がしっかりしていれば、逆に丹波の魅力というものを発信できるチャンスでもあるかなと感じております。

熱中症対策についてですが、実質3ヶ月間子ども達は家の中でじっとしているので相当体力がない子の方が多いかなと思います。6月に入って学校が再開され、かなりまた色々な問題が出てくると思われる中で、暑さが非常に心配だと感じております。帰る際にはスポーツドリンクを飲んでから帰るなど、色々な対応をサポートしていただきたいと思っております。以上です。

○近藤部長

ありがとうございました。安田委員さんいかがでしょうか。

○安田委員

オンライン学習についてですが、不登校のお子さんにとってはやはりオンライン学習が少しでも充実していると、学習面でのフォローにもなるかと思えます。Wi-Fi環境が整備されていない場合は、例えば中3小6小1に関しまして、自治会レベルでWi-Fiが使える環境の所もあると思いますので、そういう場所を提供するなり、小学1年生に関しましては保護者の方がお仕事をされている場合は誰か先生がサポートにつきながら、3密対策を行った上で学習ができればと思います。

熱中症対策についてですが、昨年プールから帰ってきてから体調を崩されたお子さんがいたと聞いています。学校にいるときだけでなく、帰っても保護者がいないご家庭のフォローなどをどうするかということが心配な点です。スポーツドリンク、塩飴、クールタオルなどはそれで良いと思いますが、日傘などの使用も可能であればその方が涼しく過ごせるのではないかと思います。

熱中症対策もう1点ですが、ある程度の気温を超えた場合は一番暑い時間に帰らせるのは大変危険だと思います。希望があれば、学校である程度の時間まで過ごして宿題をするなど、ちょっと涼しくなる時間まで過ごせる環境があればと思います。6年生の子どもさんが下の子たちを見て帰るのですが、やはり小学生の子に熱中症かもしれないという判断は正直難しいと思うので、そのあたりの責任を感じている保護者の方もおられました。昨年熱中症で倒れた子どもさんの場合、車で送り迎えを可能にしてほしいという意見もありまし

た。以上の点を踏まえてご検討いただけたらと思います。以上です。

○近藤部長

ありがとうございました。出町委員さんいかがでしょうか。

○出町委員

私の方からは学びの保障についてという部分で、子ども達の視点に立つと課題が沢山あると思います。その一方で、メディア等で子ども達の学びについて取り上げられることが多くなり、今まで興味を持っていなかった人達にとって、子ども達のことや学びのことについて考える機会が増えているタイミングではないかと思っています。そういう意味で言うと、学校の中はもちろん地域の中で学びのことをもう一度考えていく環境として、今非常に良いタイミングだと思います。

私は現在、青垣町の方で佐治スタジオという施設をかまえていますが、そこではWi-Fi環境も学生の授業のために整えています。それ以外にも地域の中で空き家を4件ほど活用しておりまして、そこも全てWi-Fi環境を整えています。ですので、Wi-Fi環境が整っていない家庭の子ども達に提供する準備ができていますし、既に地元の学校の校長先生とも情報共有をしています。恐らく我々だけでなく、色んな方がそういった形で子ども達の学びの保障を進めていく上で何かできることがあると思います。そういったことを考えていただく良い機会ではないかと思っています。我々もそうですし、他にもWi-Fi環境を提供できる場所は自治会も含めて沢山あると思います。今回はコロナですが、色んなことが今後も起こることが考えられますので、いざ本当にそういう所が必要になったときに動けるようなネットワーク作り・体制作りだけでも進めておくべきだと思います。

あと、コミスク・市民プラザなどもありますので、そういったところでも学びについて考えていくような取り組みをやっていけるとと思います。そういう時に必要なのはやはり情報共有だと思いますので、そういった意味では教育委員会と市長部局、情報を共有していきながら進めていく体制はこれからも続けていきたいと思っています。以上です。

○近藤部長

ありがとうございました。岸田教育長いかがでしょうか。

○岸田教育長

市長の方から子どもの学びに格差が出ているとありましたけど、確かに長期の臨時休業によって学びの格差が相当出ていると思います。一応夏休みを短縮することで授業時数は確保していますが、授業時間＝確かな学びではないと思っています。家庭の経済的な背景と学力には相関関係があり、例えば家庭に沢山本がある家とない家で学力が違っていると研究所も発表しています。その中で3ヶ月も家庭に子ども達はいたわけですから、その格差は相当だと思います。それをどう埋めていくかが非常に重要なことだと思っています。

その中で今GIGAスクールの話があり、読売新聞をみると兵庫県のような特別警戒都道府県については他よりも早い7月末に整備すると報道が出ていました。しかしその中で課題があるのは、やはりWi-Fiの環境をどうするかだと思います。ひとつはWi-Fi環境が整っ

た施設を開放してもらい、学校のコンピューター室を開放する、市の施設でWi-Fi環境がある所があればそこを使う、もうひとつは貸与をするやり方があると思います。家庭で買ってください、契約してくださいとはなかなか言いにくい中で、どういう風にしていくべきなのか。8%のご家庭にこれから先ずっと貸与も出来ないのも、期限を付けて貸与したとしても、その先は家庭で整備してくださいという条件付きになるのか悩ましいところです。ただ、今回のことで保護者にはオンライン授業というのがインプットされたので、もしもう1回臨時休業になったとき、前と同じで何もしてくれへんとならないように、その整備については今教育委員会の方で早急に行っているところです。

もうひとつは、今回新しい学びに変わるチャンスですので、休み前の授業に戻らないようにすべきだと思います。これからはオンラインとオフラインの授業が組み合わせられていくだろう、つまり対面授業によるリアルな教室とクラウドの教室という2つの教室が上手く動かないと駄目だと思っています。例えば、連絡帳をコンピュータで管理する、ホームページに課題を貼るなど、日常的にコンピュータを使う仕組みを考えないといけないと思います。

今回保護者の中で安心を届けてくれる学校の評価は非常に高かったですが、飛沫感染の危険があるからという理由で行ったポストインだけの取り組みは、冷たく映ってしまいました。やはり保護者の方と子どもが望んでいたのは、どこかで繋がっておきたい、電話でもメールでも良いから子どもと直接話してほしい、出会ってほしいということでした。だから下駄箱での課題の受け渡しは、子どもがものすごく楽しみにしていて、先生が一言声をかけながら渡してくれるのが嬉しくて喜んで行っています、と言う話をよく聞きました。そういうアナログとオンラインとを上手く組み合わせていくのが大事かなと思います。

あと、安田委員が言っていた不登校の子についてですけど、今回丹波市の不登校だった子がオンラインでの朝の会には参加したそうです。不登校の子がオンラインで授業に参加できるのであれば、それは授業科目とできますので、不登校が不登校でなくなった、リアクションを問わない学びということになってくるかなと。今それを学校でも模索してもらっています。

モラルの話が出ていましたが、車の運転と交通マナーと同じ話で、使いながらマナーを守る、マナーを守りながら使う、という二刀流で行かないといけないと思います。特にプロレスラーの方の件が国の中でも取り上げられており、1日100件以上の誹謗中傷メールがあったということで、そういうところをきちんとしておかないといけないと思います。学校では今一番それを指導されていると聞いています。登校日のときは正しく恐れる指導をメインにされていると聞いていますので、このあたりも大事なかなと思って聞かしていただきました。以上です。

○近藤部長

ありがとうございました。教育委員さん、教育長の方からもこの2つの課題についてのご意見いただきましたけど、市長部局でも何かご意見ございましたらお願いします。

○谷口市長

ちょっと水を差すようなことを言うかもしれませんが、やはり子どもは子どもの中でしか成長しないという風に私は確信を持っております。20年以上前になりますけど、私も小学校・中学校と両方でPTAの会長・副会長を何年かさせていただきました。オンラインというのは遊んでいても寝ていても誰も注意をしてくれない、自分自身で管理をしていかないと仕方がないというお子さんも沢山出てきていると思います。大人なら自己責任ということでいいのですが、子ども達にはどうなのか。安田さんが言われたように、不登校の子どもさんが参加できるようになった、これは本当に素晴らしいことだと思います。しかし、そういったことに極端に振れすぎると良くない、まさに岸田教育長が言われたようにオンラインとオフラインのバランスが大切であると思います。本来これはオフラインで充分できるのにあえてオンラインでやる必要はあるのか、みたいなことを私はちょっと感じる場所です。光と影の部分は絶対出てくると思っていますが、新しくものを作り出していく思考力と創造性、それを伸ばしてあげることが最高ではないかと、そんなことを思っております。

○鬼頭副市長

先ほど出町委員さんが仰っていた地域がどう学びに関わっていくかというところで、これまで丹波市ではコミスクであったり、平成たんば塾であったり、家庭や学校だけに任せるのではなく、子ども達の学びを地域が応援・支援していくことをしていました。今回、人との接触を8割削減しようという中で、なかなか地域が子ども達の学びを支援する場面に出て行きにくい状況になったと思います。丹波市の26年の豪雨災害のときでも全国からボランティアが集まるなど、色んな応援の仕方がありました。今回そういう意味では、困っている家庭があると分かっているけど、地域が出て行きにくい状況だったのかなと思います。また第2波第3波があるかもしれない中で、どうやって孤立する家庭を地域が応援していくのか、また行政がどう地域を応援していくのか、なかなか悩ましいなと思います。何か具体策を持っているわけではなく、悩ましいなという感覚を持っております。以上です。

○近藤部長

そのあたり、これからの地域と学びの関わり方みたいなところで何かご意見がいただけたらと思います。

○岸田教育長

例えば出町委員が言っていたようにWi-Fi環境がある家を貸すとか、あるいは沼貫地区の子ども食堂だとか、やはりそのような応援をしたいという声をよく聞きますけど、大人が寄ることすら許されなかったので、時間がかかったということがあります。また、自立支援課の方でも気になる子どもさんを訪問していただいていますし、民生委員さんにも回っていただいていますので、そういった連携が教育委員会の場合は特に大事で、そのあたりから気になるお子さん情報が入ってきたりします。色んな力の借り方を今回学んだと思っています。まだ今回の取り組みを整理したわけではないので、一旦は総括して、どういう取り組みが功を奏したのかということについては早急に整理していく必要があると思います。

○鬼頭副市長

そういう功を奏した地域の取り組み事例を市内全体に発信していけば、この取り組みは自分達にも出来ると思ってくれる人がいると思います。色んなところに周知してPRをしていけば、恐らくそんな自主的な取り組みが沢山広がるのかなと思います。

○安田委員

沼貫地区でお弁当配達をさせていただいたのですが、沼貫地区の広報を私は担当しているので、その記事には学校の先生も一緒に協力したことや、沼貫地区の皆さんにも手伝っていただいたということを写真と一緒に広報に載せたいと思っています。やはり1件1件訪問することによって、普段出てこられない子どもさんの姿を見たり、ちょっと泣きながら話をした子どもさんがおられたり、やっぱりすごく学校って大事だったのだなというのを感じる良い機会になったなと思いました。

○出町委員

教育長からもありましたが、やはり検証をするということがすごく必要だと私自身思っています。豪雨災害があったときも色んな取り組みがあり、そのあと検証して、次の災害に備えるというようにしましたが、今回も同じことだと思います。備えがなかったので、いきなりこういう状況になってどう動いていいかわからなかったのだと思います。第2波を含めて、これからの色々なことに備えなければいけないので、今回のことをしっかり検証して対策をすることが必要だと思います。例えば、民間の方を含めたミーティング的なことをするのか、そういったことを仕掛けやすい組織と協力しながら、学校関係の方や民間の様々な取り組みをされた方々と一度寄り沿って、今後に向けて努力できること、もしくは今までどんな対応をしたかなど、今後に向けての議論ができる場を積極的に設定していくのがいいかなと思います。

○近藤部長

ありがとうございます。時間も迫ってきている中ですが、何か他にもご意見がある方はお願いします。

○横山委員

コロナの時代ということを考えたときに、私が一番教育に欠けていると思ったのは、公衆衛生の知識を学校教育で教えていなかったことです。これは丹波市だけの問題ではないのですが、なぜ手洗いが必要なのか、石鹸にはどういう作用があるのか、石鹸とアルコールどう違うのか、そういったことを市民が理解しないと、闇雲にアルコールやマスクに群がるという状態になるのだと思います。パニック状態を起こしている理由として、やはり知識がないという点があったらと思います。外部の先生をお呼びするような講習会があると思いますが、そういったところから公衆衛生についてしっかり正しい知識を学ぶような場が必要なのかなと考えています。これは今大人も出来ていない問題ですが、正しい知識があればパニックに陥る必要もなくなると思うので、公衆衛生に関する知識を学ぶ機会を今後ご検討いただけたらなと思っています。

○深田委員

これからまた第2波第3波の波がやってくると常々言われておりますが、今回のコロナでは緊急事態宣言が出されて兵庫県がそれに該当し、知事から色んな休業要請等が出ました。しかし兵庫県は広いので、緊急事態宣言が出ても地域を限定して、市町立の小中学校については地域性を良く考えて発出してほしい、という声が私の周りからも挙がっていました。また、子ども達についてもそういう風な対応をした方がいいのかなという思いもあります。ですので、これから第2波第3波が起こっても、家庭・保護者・地域が子どもを支えていこうという環境になれば良いなと思っております。

○近藤部長

ありがとうございます。他、この2点についていかがでしょうか。よろしいでしょうか。沢山の良いご意見を出していただいたと思っています。課題も明らかになったのではないかなと思います。総括して検証するということ、また地域が学びにどう関わっていけるかということ、市長部局にも大変関係するようなご意見もいただいたのではないかと思っております。また持ち帰りまして、共有していきたいと思っております。

○岸田教育長

最後に1点だけ。検討してもらう中で、やはり第2波第3波が来たときにリアルな教室が一旦閉ざされてしまうことは確かです。そうした学びをどう保障するかはオンライン・オフライン両方ありますが、ICTの力は非常に大きいということが今回全国的に証明されました。しかし、公立学校に関しては5%しかオンライン授業が出来なかったという現実があり、財政が非常に厳しい中ですがオンライン環境を整えておくことが、市民・保護者の安心にも繋がるので、色んなことも含めて今後検討いただきたいし、また教育委員会も色々と検討させていただきたいと思っております。以上です。

5 その他

○近藤部長

ありがとうございます。この2点については以上ですが、その他にこの会でご意見頂いておくことがございましたら教育委員さんの方からお願いします。せっかくの機会ですので、何かございましたらどうぞ。

○深田委員

市長部局におかれましては、教育委員会と協議をする場を組んでいただいて、そして丹波市の政策の中に反映していただける、これは本当に感謝を申し上げます。教育委員会が端に追いやられているという話も聞きますので、丹波市の教育委員会としては本当にありがたい対応をしていただき、私たちが一生懸命子ども達の学びについて考えられる機会を与えていただいていると思います。今後もそういう風な対応をいただければありがたいなと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

6 閉会

○近藤部長

ありがとうございます。それでは貴重な時間でありましたが、閉会とさせていただきます。閉会を副市長の方からお願いします。

○鬼頭副市長

本日は大変貴重な時間を頂戴いたしましてありがとうございます。また、貴重なご意見を頂きました。まだまだ引き続きコロナ対策をしていかないといけませんので、今日頂いたご意見につきましては、今後の対応策の中で充分検討させていただきたいと思います。また第2波第3波がいつくるか分からない、そういった中でも本日の意見等を踏まえて進めて行きたいと思います。本日はどうもありがとうございました。